

## 大学生の読解力の現状について

— 新入生配布資料に対する読解力を中心に —

千葉軒士

### A Study on Reading Abilities of University Students

Takashi CHIBA

This paper reports on the survey on the current state of reading ability of university students. Arai (2018) explains that there are many students who do not fully understand school textbooks. Based on Arai, this paper examines how much university freshmen understand the contents of handouts distributed upon entrance. As a result, it has turned out that a certain number of students have difficulty in understanding the contents. Also, we have observed not a few students who cannot understand the basic syntax of Japanese. This shows that we must take much care in the preparation of teaching and other materials.

**Keywords:** reading ability, basic syntax of Japanese

#### 1. はじめに

本稿では、大学生の読解力の現状を確認することを目的とする。大学生の読解力の現状については、角 (2011) や皆川 (2017) など、執筆者が所属する各大学の初年次学生の解答をデータとした調査、報告が数多く取り上げられている。例えば、角 (2011) では、大学生の語彙力をベースにした読解力の報告がなされており、皆川 (2017) でも学生の読書量と国語力に関連が見られるかといった報告が行われている。しかし、こういった報告でなされているものは、語彙力の不足、読書量の不足による国語力の低さを伝えるものである。

しかし、本年、話題になった新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』(2018) では、語彙力、読書量とは関係があるとは思えない学生の読解力の実態が指摘されている。

新井 (2018) では、以下の問題が取り上げられている。

問1 以下の文を読み、「⇒」以降の文の空欄に当てはまる語句として最も適当なものを、以下の選択肢から選び、記号で答えなさい。

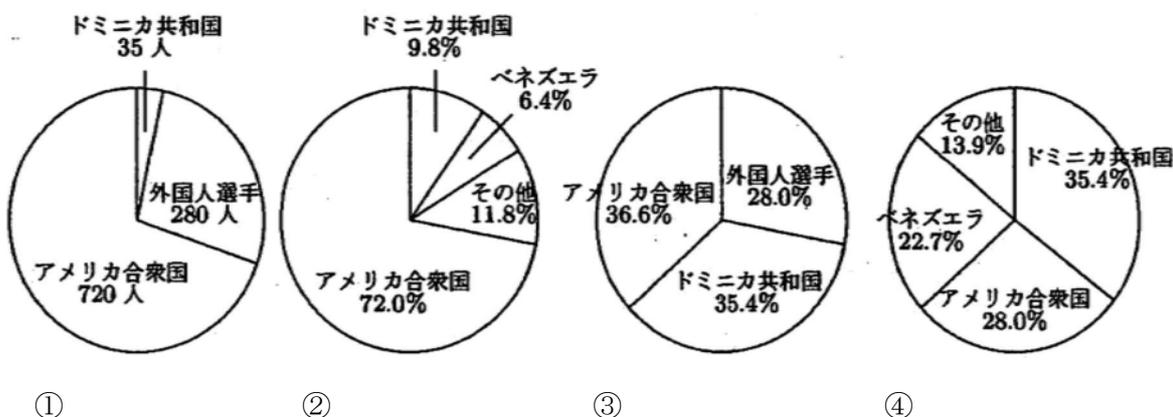
Alex は男性にも女性にも使われる名前であり、女性の名 Alexandra の愛称であるが、男性の名 Alexander の愛称でもある。

⇒ Alexandra の愛称は 【                      】 である。

- ① Alex                      ② Alexander                      ③ 男性                      ④ 女性

問2 以下の文を読み、メジャーリーグ選手の出身国を表すグラフとして適当なものを、後の選択肢からすべて選び、記号で答えなさい。

メジャーリーグ選手のうち28%はアメリカ合衆国以外の出身の選手であるが、その出身国を見ると、ドミニカ共和国が最も多くおよそ35%である。



この問題は、新井らが取り組む、基礎的読解力を調査するためのリーディングスキルテスト (RST) の問題である<sup>1</sup>。語彙や漢字に対する知識ではなく、文の切れ目、主語と述語の関係、修飾語と被修飾語の関係、つまり「文構造/語句の係り受け」といったものを正しく理解できているかを試すものである。問1の正答は①であるが、新井の調査では、全国の中学生では正解率38%/不正解率62%、全国の高校生では正答率65%/不正解率35%であったことが示されている。また、問2(正答=②)は、全国の中学生の正解率が12%、全国の高校生の正解率が28%と、問1よりも明らかに低い。この問2は、文章の正確な読解に加え、読解した内容を図やグラフと対照する能力を試すものであるが、この結果から、そもそもの本文の読解が不十分である学生が多く見られることがわかる。新井(2018)は、これらの問題を通じて、語彙力以前の日本語の言語としての構造をしっかりと理解できていない学生が存在することを示した。

この2つの問題を筆者が担当する「日本語スキルA」の受講生(336名)に解かせてみたところ、問1の正解率は71.13%、問2の正解率は、61.6%という結果が出た。新井の調査を受けた学生よりも本学の学生のほうが高い正解率でこそあったものの、対象年齢の差(学校種別

<sup>1</sup> RSTは、国立情報学研究所を中心とした研究チームが、大学入試を突破する人工知能(AI)の研究を通して開発した、基本的読解力を測定するためのテストである。中学生用の教科書の本文を使用して問題を作成し、生徒が教科書の内容を正確に読み取れる力を有しているかどうかを測り、テスト結果に基づき「なぜ読めないのか」という理由を分析することを目的としている。



下のような結果が出た。

表1 建学の精神問題 集計

実施者数	正解者数	正解率
331	192	58.0

<sup>2</sup>

半数以上の学生は2つの文章を「同じ文」として読解している一方、4割もの学生が「異なる内容を示す文」として理解していることがわかる。問題で使用したこの部分に限らず、本学で配布している資料の内容は、こちらの意図する形で学生に伝わっていない可能性（つまり、学生が資料を十分に理解できていない可能性）がうかがわれる。本稿では、いくつかの問題とその集計データを取り上げ、大学生の基礎的な読む力の実状について検討していく。

### 3. 調査方法

CRSTによる学生の読解力の調査は、筆者が担当する1年生の春学期「日本語スキルA」の授業で実施した<sup>3</sup>。対象となったクラスは、この授業を卒業要件としている以下の学部・学科の10クラスである。

応用生物学部

応用生物化学科、環境生物科学科、食品栄養科学科

経営情報学部 経営総合学科 (3クラス)

工学部

建築学科、情報工学科、応用化学科 (2クラス)

10クラス、合計約330名を対象に、これまでに11回の調査を行った（ただし、学生の出欠状況により、実施回ごとの参加人数には多少のばらつきがある）。また、調査は、毎授業の最後に10分の時間をとり、プリントを配布→提出するという形で行った。なお本研究は、学生の回答を利用するため、倫理的配慮が必要である。学生の実施する問題には名前を書く欄があるが、個人の回答を特定し、その内容を問題にすることはしない。また匿名での実施も可とした。また回答者のプライバシーの保護には万全の注意を払い、たとえ、回答がなかったとしても、不利益は生じないことは文章で伝えた。調査結果はすべて集団として統計処理を行う。なお、学部学科ごとのデータ集計も行っているが、現在までのところ有意な差も見られないこと、さらに本稿の目的はあくまで大学生が様々な資料を読めるかどうかを確認することであることから、細かなデータは省略し、全体としての傾向のみを示す。

### 4. CRSTの結果

<sup>2</sup> 以下、表の正解率の小数点第3位は切り捨て。

<sup>3</sup> 内6クラスは筆者が担当、4クラスは本学非常勤講師の加藤早苗先生にご協力いただいた。

#### 4.1 「CAMPUS LIFE 2018」

「CAMPUS LIFE 2018」のp.5にある「大学の学修は単位制です」の部分をベースにして、以下の問いを作成した。

問1. 以下の文を読み、後の問に答えなさい。

大学の学修は単位制を採用しており（学則第15条）、1年間の授業時間を春学期と秋学期に分けます。単位の基準は原則として1単位の学修時間を授業と準備のための自習を合わせて45時間としているので、教室内における1時間の授業に対して2時間の予習・復習が必要となります。必要な時間数を受講した者で試験等の結果、合格すると単位が修得できます。

問：1単位当たりの総授業時間数を答えなさい。

表2 問1の集計

実施者数	正解者数	正解率
331	189	57.09

正答は「15時間」である。間違えた学生の多くは、45時間と解答していた。この45という数字は、「授業と準備のための自習を合わせて45時間」という部分に見られるものである。ここから、学生は「授業」の時間と「準備のための自習」の時間（＝授業1時間あたり、2時間の予習・復習）の区別が出来ておらず、本文にある「学修時間」の数字をそのまま解答したと考えられる。

次にp.7の「暴風警報発令時、東海地震などの震災時等の授業実施について」をベースに以下の問題も実施した。

問2. 以下の文を読み、後の問に答えなさい。

《暴風警報発令時の授業実施について》

尾張東部または愛知県西部全域に暴風警報発令の際の授業については、次のように取り扱います。

- 1) 午前7時の時点で、発令中の場合は、当日の午前の授業は休講とします。
- 2) 午前10時の時点で、発令中の場合は、当日の授業は休講とします。
- 3) 午前10時まで解除となった場合は、午前中のみ休講となります。
- 4) 授業等の最中に発令された場合は、当日のその後の授業は休講となります。ただし、休講に入る時刻については指示されます。

問：次のそれぞれの文が示す場合における当日の授業の実施について、「午前のみ休講」

「午後のみ休講」「終日休講」「休講にならない」のいずれかで答えなさい。

① 午前9時の時点で、大雨警報が発令中の場合

答： 午前のみ休講 ・ 午後のみ休講 ・ 終日休講 ・ 休講にはならない

② 午前11時に、暴風警報が解除された場合

答： 午前のみ休講 ・ 午後のみ休講 ・ 終日休講 ・ 休講にはならない

表3 問2の集計

	実施者数	正解者数	正解率
①	331	168	50.75
②	331	299	90.33

①では、警報の種類（暴風警報／大雨警報）をしっかりと確認しながら読めているかどうかを確認した。設問で触れられているのは「大雨警報」であるため、正答は「休講にはならない」となるが、半数の学生が、「午前のみ休講」を選んだ。これは、「大雨警報」と「暴風警報」という字面の違いを意識せず、単に「警報が出ていたら」という程度の意識で設問を読んだことによる、単純な誤答のようにも見える。だが、一方で、②では学生の9割が正答となる「終日休講」を選んでいるところを見ると、決して適当に読んで答えているのではなく、学生がしっかり読んだ上で起こした間違いと取ることもできる。この場合、本文にはあくまで「暴風警報」としか書かれていないにもかかわらず、「大雨警報」発令時にも、「暴風警報」同様の対応となると拡大解釈したのかもしれない。次に pp.12-13 の「窓口」の説明をもとに以下の問いを作成した。

問3. 以下の文を読み、後の問に答えなさい。

教務支援課・学生支援課・キャリア支援課は、みなさんのこれから4年間の学修、課外活動、就職、その他の大学生活全般にわたって、支援を行うところです。

《教務支援課》

授業・授業全般に関すること、各種証明書（通学証明書・健康診断証明書を除く）の発行など。

《学生支援課》

各種願・届の受付、通学証明書・健康診断証明書等の発行、奨学金関係、傷害保険、下宿、アルバイト、課外活動に関すること。

《キャリア支援課》

就職活動全般について。各種就職ガイダンスと個別面談による就職指導、また様々な就職情報の提供と就職の斡旋。

問：以下の①・②のような場合、どこの窓口に向かえばよいか。それぞれの場合について、最も適当な窓口を答えなさい。

- ① 生活費が不足してきたので、仕事を紹介してほしい。
- ② 空き時間を利用してボランティアに参加したい。

表4 問3の集計

	実施者数	正解者数	正解率
①	335	273	81.49
②	335	291	86.86

①の正答は、「学生支援課」であるが、仕事の紹介という言葉につられたためか、「キャリア支援課」を選択する学生が2割程度みられた。②は、「ボランティア」を「課外活動」と置き換えた「学生支援課」が正答だが、授業全般と捉えたためか、「教務支援課」を選ぶ学生もいた。近年、様々な場面で見当違いの問い合わせ（相応しくない場所での問い合わせ）をしている学生が見られることがあるが、これらの結果を見ると、そのようなケースが起こるのも当然というべきかもしれない。

#### 4.2 図書館館内案内

本学で配布している図書館内案内を用い、以下の問題を作成した。

問4. 以下の文を読み、後の問に答えなさい。

入館時には、学生証を入館ゲートにかざすとバーが開きます。学外者は、1階カウンターで本人確認ができるもの（運転免許証、保険証等）を提示して入館手続きを行い、学外者用の入館証をかざして入館してください。

問：上の文において、入館ゲートを開くために必要なものとして挙げられているものを、すべて答えなさい。

表5 問4の集計

実施者数	正解者数	正解率
341	154	45.16

正答は「学生証」と「学外者用の入館証」の2つである。半数の学生が間違えた理解をしていたことになるが、誤答の内の多くは、上の2つに加え「本人確認ができるもの」もあわせて答えていた。設問が問うているのは、「入館ゲートを開くために必要なもの」であるが、多くの学生は『「入館ゲートを開くために必要なもの」を手にするためのもの』まで含めて「入館ゲートを開くために必要なもの」とみなすという拡大解釈をしていたと考えられる。

#### 4.3 その他の資料

本学を志願する高校生などに配布される「大学案内」や本学で公開している「データで見る中部大学」の「留学生の受け入れ状況」もCRSTに利用した。特に人数を問う問題で多くの誤答が出た。以下の問題である。

問5. 以下の文を読み、後の問に答えなさい。

西山大学には1学年に1000人が在籍し、総数で4000人が在籍しています。西山大学の実学主義は、企業から高く評価されており、採用を抑制する企業が増える中、今年度の西山大学の卒業生のうち、99%が就職し、さらに60%の卒業生は大手企業に就職しました(大手企業：上場企業・非上場企業(資本金3億円以上または従業員300人以上))。

問：今年西山大学から大手企業に就職した学生の数を答えなさい。

表6 問5の集計

参加者数	正解者数	正解率
332	143	43.07

CRSTは計算力を求めるものではない。そのため、数値のみ、実際のものから計算しやすい単純なものへと置き換えた上で問題を作成した。本問題の正答は「600人」であるが、1000人の99%の990人の60%の「594人」と答える学生が多かった。「60%」の記述がどこにかかるのか分からなかったための解答だと思われる。また、「594人」ほどではないものの、1000人の99%にあたる「990人」、4000人の99%にあたる「3960人」、4000人の60%にあたる「2520人」といった解答も多く見られた。いずれの誤答も、計算力ではなく読解力が不足しているために生じたと考えられるものである。さらに、文章を読解した上でグラフを作成するという問題も課した。

問6. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

西山大学には10000人の学生が在籍しています。そのうち、留学生は1%を占めます。こ

の留学生は世界14か国から訪れており、地域別に分類すると、アジアが全体の8割を占め、ついでヨーロッパ、アメリカと続きます。国別では中国からの留学生が最も多く、留学生全体の5割を占めます。

問① 西山大学に中国からの留学生は何名在籍しているか。答えなさい。

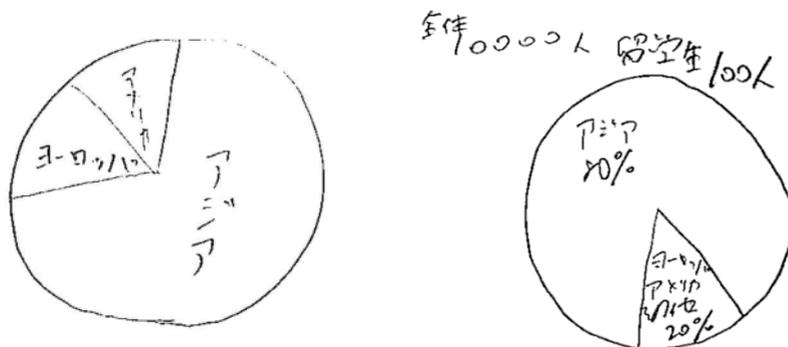
問② 西山大学の留学生の地域別の割合を、円グラフで示しなさい。

表7 問6の集計

	参加者数	正解者数	正解率
①	315	240	76.19
②	315	114	36.19

問①の正答は、留学生全体の5割を占める中国からの留学生を問うているので、「 $(10000 \times 1\%) \times 5 \text{割} = 50 \text{名}$ 」であるが、全体の5割で「5000人」、留学生100人の8割にあたる80人の5割で「40人」と答える解答が見られた。正解率がより低かったのが問②である。以下のようなグラフが多く解答で見られた。

図1 問6②の学生による代表的な解答例



まず、左図について、留学生全体の8割を占めるアジアが円の4分の3以下で示される。さらに、地域別にはアジア、「ヨーロッパ、アメリカと続」くと表現しているものの、ヨーロッパ、アメリカを同じ幅で書く解答が多数みられた。また右図のように円グラフの始点が下から始まる例も多数みられた。文章を読解する能力はもちろん、読解した内容を図示する能力も欠けていると言わざるを得ないだろう<sup>4</sup>。

<sup>4</sup> 日本語スキルAという授業では、このCRST以外にも多くの記述活動を課す。学生が書いてくる内容を見る限りでは、「図示」に限らず、「インプットしたものを、適切な形（本人がインプットした内容を保持した状態）でアウトプットする」ということ全般を、学生が苦手としているように思える。より正確に表現するならば、「【言いたいこと】を本人の思うように書いたものが、他者には【本人の意図とは異なる形】でしか伝わらない状態になっており、しかも本人はそのことにまったく気付いていない（もしくは、気付いていても、それを問題だと認識していない）、といった事態が起こっているように感じられる。CRSTは、主に「正しい形で情報をインプットすることができるか」を調査するためのものだが、ゆくゆくは「インプット→アウトプットにずれがないか」といった側面からも調査

## 5 学内配布資料以外の CRST

CRST では、新入生向けの配布資料以外の資料を利用して、基礎的な文の構造理解についても調査を行った。

問7 以下の文を読み、後の問に答えなさい。

日本では、2003年夏から、医師の対応が得られない場合や傷病者が完全に呼吸停止状態である場合に、一般人であっても講習を受けている者であれば、厚生労働省が承認した AED の使用が認められるようになった。本学では、1号館ロビー、保健管理室、体育館、工学部事務室、経営情報学部事務室、国際関係学部事務室、人文学部事務室、応用生物学部事務室、生命健康学部事務室、現代教育学部事務室の10か所に備えられている。

問：傍線部「備えられている」とあるが、「備えられている」ものは何か。答えなさい。本文の情報のみでは判断できない場合は、「判断できない」と答えなさい。

表8 問7の集計

実施者数	正解者数	正解率
341	316	92.66

これは本学の AED の設置 MAP をベースにした説明文を問いにしたものである。正答は「AED」であるが、7%の学生は「判断できない」や「医師」という解答を記入していた。また、ニュース記事を用いて主語の確認を行う問題も実施した。

問8 次の文章の傍線部「絞り込んだ」の主語は何か。答えなさい。

政府は、「人生100年時代構想会議」の会合を官邸で開き、最終報告となる「基本構想」の骨子を提示した。質の向上を目指した大学改革や、社会人が学び直す「リカレント教育」の推進、高齢者雇用の拡大などが柱となる。幼児・高等教育の無償化については、対象範囲を絞り込んだ。

(時事通信社 [jiji.com https://www.jiji.com/jc/article?k=2018060101259&g=eco](https://www.jiji.com/jc/article?k=2018060101259&g=eco))

問9 次の文章の傍線部の「間に合わなかった」ものは何か。答えなさい。

大阪市北区などで震度6弱を観測した地震で、気象庁は初期微動の地震波を検知してから、

---

を行いたい。今後の課題である。

3.2 秒後、最大震度 5 弱以上の揺れへの警戒を促す緊急地震速報を出した。しかし、大阪府北部や京都府南部など震源に近い一部地域では、大きな揺れの到達時刻に間に合わなかった。  
(毎日新聞 mainichi.jp <https://mainichi.jp/articles/20180619/k00/00m/040/018000c>)

表9 問8・9の集計

	実施者数	正解者数	正解率
問8	315	250	79.36
問9	188	174	92.55

どちらも、述部から対応する主語を特定する問題である。問8では、「政府」という正答に対し、「幼児・高等教育の無償化」という誤答が、問9では「緊急地震速報」という正答に対し、「初期微動の検知」という誤答が、それぞれ目立った。これらの問題については、「主語」という文法用語の意味を誤解しているための誤答という可能性も考えられるかもしれない。しかしながら、中学・高校における国語（主に、古文・漢文）や英語の授業などでは、これらの文法用語や「SVOC」などといった略称が用いられていることを考えると、やはり文法用語に対する理解度のみで、この誤答を片付けることはできないだろう。

以上、これまで見てきた問題を通して、大学生が新入生向けの配布資料や、基礎的な文章の理解も十分にできていないケースがあることを確認してきた。本稿で挙げた問題（ひいてはCRSTで扱っている問題）全般とRSTに共通しているのは、共に「答えがそこに書いてあること」である。決して特別な語彙の理解を必要としているのではなく、あくまで「書いてあることから、必要な情報をしっかりと読み取れるかどうか」を確認しているにすぎないのだが、それでも間違える学生がいる。ここから、語彙力の増強のみではなく、日本語の言語としての構造もしっかりと把握することや、情報を的確・適切に対照することが、読解力を向上させるためには必要であると言えるだろう。

## 6 読解力がないということ

ここまで学生の中には配布資料を十分に理解できていない者が少なからず存在していることを確認してきた。もちろん、このCRSTの取り組みに対して、学生がしっかりと取り組んでいないための結果であるといった指摘もあるだろう。そのような可能性を排除すべく記名式にして実施してこそいるものの、そういった学生がいるために生じた結果である可能性を完全に否定することはできない。だが、誤った解答をする学生の人数の多さを見ると、決してそれだけを理由にして納得することもできないだろう。何より、仮に学生が「しっかりと取り組んでいない」のであれば、その姿勢を改善し、あらゆる情報に対して真摯に向き合えるようにすることも必要ではないかと考える。

新井(2018)では、興味深いエピソードが取り上げられている。

一つは法学部生だった学生時代の体験です。冤罪で逮捕され後に無罪を勝ち取った女性の

お話を聞く機会がありました。障害児施設で保育士をしておられた方です。とても有名な冤罪事件です。その女性が非常に落ち着いて、理路整然とお話しされるのを聞いて、私を含め多くの学生が、どうしてこんなに論理的に話ができるのに誤認逮捕されたのか、とても不思議に思い、当局に対して強い憤りを感じました。しかし、その語、冤罪事件で無罪を勝ち取った他の方たちのインタビューを読むにつれて、この事件が特殊ではなく、どなたも落ち着いて論理的に話されることに気づきました。

ここから先は私の勝手な想像に過ぎませんが、誤認逮捕された当初は、どなたも特に論理性に優れた方ではなかったのかもしれませんが。しかし、弁護士や支援者に助けられ、論理しか共通言語のない法廷で戦わざるを得ない状況の中で、論理的に理路整然と主張することができる能力が培われていったのではないのでしょうか。

(pp.250-251)

この話にある「論理的に理路整然と主張することができる能力が培われ」という経験を、筆者は不利益を回避するための積極的な行動として今の学生にあてはめられないかと考えている。学生にとって、自らに不利益が生じるならば、資料を理解しようと積極的に取り組むだろう。しかし、そうでもない限り、積極的に読解に取り組むことは難しい。学生への配布資料を学生がしっかりと読む、そしてそれを読めるという前提は、ここまでの論からも、限りなく妄想に近い。「書いてあるから、しっかりと読みなさい」ではダメなのである。「書いてあっても、分からない」者がいる、これが実状である。そして大学生にとって、読めないことは不利益でしかない。

この学生たちのために、どうすれば読解力を高めることができるか。安易な読書の強要、スマホなどの使用時間の制限に答えを見出すのは難しい。というのも、RSTの調査は読解力のみを測定したのではなく、参加者がどういう状況に置かれているかも詳細な調査をし、読解力向上に必要となるデータの収集も行っている。新井(2018)はスマホの使用時間、日々の読書量と読解力の間に関係が見られないことを既に指摘している。この指摘は、約25000人程度のRST受検者を対象とした膨大なデータから論じているものであり、一個人の教員が出会う学生から得る、こういった経験から読解力が伸びたという成功体験だけでは科学的根拠になりえない。新井(2018)は読解力をつけるために何が必要かを指摘してはいない。どうすれば、読解力を手にすることができるか、それを考えるために、現状の学生の読解力を知るデータをしっかりと収集している段階である。この点について、私も同意する。どうすれば、読解力が増すかではなく、まずどれだけ学生が読めないか、何が読めないかを明確に把握し、その上でしっかりと対策を講じるべきであろう。今回のCRSTで語彙力とは関係のない、日本語の構文構造を明確に理解させる必要性を指摘した、読むために、日本語の仕組みをしっかりと教える、あるいは学ぶという過程が必要である。

あるいは、「やさしい日本語」に近いものを大学生にも適用すべきかもしれない。「やさしい日本語」は世界がボーダレス化しつつあることに伴い、簡易な表現を用いる、文の構造を簡単にする、漢字にふりがなを振るなどして、日本語に不慣れな外国人にもわかりやすくした日本

語のことである<sup>5</sup>。この取り組みが良い悪いは別として、書かれてあるものがわからないという状態が常であるならば、こういった学生を受け入れる側として、彼らにも容易に理解できる言語環境を整える必要があるともいえる。ただし、この「やさしい日本語」の導入は、大学という研究機関の質を自身の手で下げるというリスクを負うものでもある。誰もがわかるやさしいものを提供することと、大学で真理探究させることは相反する行為である。だからこそ、こういったものの導入には慎重な検討を重ねなければならない。

ここまでの考察で、新入生向けの配布資料を読めない学生がいることを指摘した。書いてあるのに読んでいないのではない。書いてあることが読めないのである。これをそのまま放置して大学での学習を続けることは、学生にとっての不幸である。学生が大学生生活で学ぶあらゆる場面で、誤読を生んでしまう。あらゆる研究活動に対応できる学生を少しでも、育成していくためにも、読解力の状況把握と読解力を向上させる方法をしっかりと構築していかなければならない。今後の課題である。

### 参考文献

- 新井紀子(2018)『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』東洋経済新報社  
庵功雄 (2016)『やさしい日本語 — 多文化共生社会へ』岩波書店  
角知行 (2011)「大学新入生の日本語力：2009年度学力調査から」天理大学総合教育センター  
紀要8  
皆川晶 (2017)「大学生の読書に対する意識と実態」崇城大学紀要第42巻

---

<sup>5</sup> 詳細は庵 (2016) に詳しい。

### 謝辞

本稿を記すにあたり、データ提供に本学非常勤講師の加藤早苗先生にお力添えをいただいた。また、問題作成、高校生の読解力の状況把握に関して、東海高等学校の横谷美可莉教諭にもご協力いただいた。記して感謝申し上げます。